

# イエスさまのように 認め合い、仕える子どもを目指して



巻頭言 校長 小原義信

## 難を乗り越えてきた学校の歴史

日本の学校制度が始まって、およそ150年が経とうとしています。当時、全国に設置されていた小学校は24,303校ありました。現在の小学校数は公立私立合わせて約20,000校ですので、人口比から言えば当時の学校数の多さと、それだけ全国各地に隔々にわたって学校があったことが想像できます。

明治維新後、明治政府が直ちに学校制度を置くことができたのは、江戸時代に、寺子屋や私塾が全国規模であったからだといわれています。お寺の住職や民間人が、学びたい人を集めて寺子屋や私塾を立ち上げました。今でいう私立学校です。それらを学校制度に生かすことができたのです。学校制度によって、政府はすべての学校を公立にしようとしたのですが、寺子屋や私塾の系統を続けてきた一部の私立学校は、理念や信念を守り学校を続けていました。

大正時代に入り、民本主義、自由主義によって、「新教育運動」が盛んに起こり、キリスト教の宣教師による私立小学校も続々と誕生しました。最近、この頃に誕生した全国各地の私立小学校が開校100周年を迎えています。三育小学校もこの時代の申し子として1915年現在の東京都杉並区に教会学校として誕生しました。その後1919年に寮制の中学校ができました。開校のために多くの先人たちの献身と犠牲がありました。

第二次世界大戦中、政府は1940年すべての小学校を国民学校とする発表をしました。その際、私立小学校はすべて廃止するという旨でした。その代わり、私立小学校は「初等学校」「〇〇附属初等部」と名称を変更して難を逃れ続けることができました。(日本私立小学校連合会会報参考)

しかし、本校の母体であるセブンスデーアドベンチスト教会では治安維持法の容疑で、特高警察により多くの教会の指導者、および三育学院の主要教員が検挙・連行されました。学校は業務停止命令を受け、廃校を余儀なくされました。

戦後、GHQに伴って来日したセブンスデーアドベンチスト教会宣教師たちが、本国からの資金や物資を手配し支援に貢献しました。そして、教会や三育学院が次々と復興していきました。1940年代から50年代にかけて教会の再会と共に三育の学校が全国規模で新規に開校しまし

校訓 「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもその通りにせよ。」



「バイブルウォークラリー」の一場面。休み時間、外に聖書を持っていき、問題を解くために熱心に聖書を調べています。



た。沖縄三育小学校は、1953年、琉球政府が認可した最初の私立学校として佐敷(現在の与那原市)に9名の児童数で開校しました。1974年、西原町に移転。1999年、現在の北中城村に移転してきました。

私立小学校の沿革(本校を含め)によると、先人たちの献身と祈り、血と汗と涙の結晶によって今日まで学校が続いてきたことは、史実の中から伝わってくるようにも感じます。開校から各時代においても、様々な困難をくぐりぬけてきました。近代においては関東大震災、第二次世界大戦。最近では東日本大震災、そして、今年の新型コロナウィルス感染症。形や状況は違っても、目の前の困難に必死に挑み、祈り、多くの支援によって乗り越えてきました。

今年の状況(コロナ禍)もまだまだ先が読めないことばかりが続いています。しかし、後になって難局を乗り越えた時、神様の守りと導きがあったという、忘れられない大事な歴史の1ページとして残っていくことでしょう。今、学校が存在していること、そこで学び、働いているということは、その次につなぐ、なくてはならない1ページだということを今年度は特に実感しています。

コロナ禍によって、人類から、身の回りから、学校から、家庭から、多くのものが奪われました。三育小学校の特徴の一つでもある、あらゆる場面での「密接」や関わりが、難しい状況にもなっています。しかし、同時に新しく生み出されたものや、気づけたことがあるのも事実です。「ウィズコロナ」とはどんなものかまだ確立できていないことも多くあります。わからないこと、不安なこと、思い通りにならないことに溺れていきがちですが、何かを生み出すことや、新しいつながり方を探っていくことも賢明な方法ではないかと思うのです。先人たちが、あらゆる困難を乗り越え、その経過の中で何かを生み出し、新しい方法を見出し、後世に残していったように。

「わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる。」ガラテヤ人への手紙6章9節

ご家庭の上に神様からの祝福が豊かにありますようお祈り致します。

## ◇ 修学旅行について

今年度の修学旅行を次の通り行うことが決まりました。

日 程:2021年1月13日(水)~15日(金)

旅行先:沖縄県内

5年生にとってはずっと楽しみにしてきたことですので、残念な気持ちでいますし、学校としましても北海道に連れていきたくったというのが本音です。コロナ禍において、あらゆる可能性とリスクを検討した結果、このように苦渋の判断をしました。

しかし、5年生は気持ちを切り替え、立て直しつつ、このことを前向きにとらえようとしています。変化に対応しようとする5年生の姿を誇らしく思っていますし、私たち大人が励まされています。彼らにしかできない修学旅行、思い出に残る有意義な修学旅行となるようにと祈っています。

どうか、皆様のお祈りに加えて下さり、この修学旅行を温かく見守り応援してくださいませようお願いいたします。

## ◇ 漢字検定

10月23日(金)予定しています。

(申し込みは締め切り済み)

当日、受験者はスクールバスに乗ることができませんので、お迎えをお願いいたします。終了時刻は16:30頃となります。

## ◇ 縄跳び大会

縄跳び大会(ファミリー対抗)

10月23日(金)1~2校時

例年は三育中学校の交流会に出かける行事と抱き合わせて行ってきましたが、コロナ禍によって中学校に訪問することができませんので、小学校で縄跳び大会のみ行います。

様々な行事が見送られている中、児童にとって、意欲的に目当てを持つ機会となればと考えています。また、ファミリー内のメンバー同士の親睦を図ることができる機会になればと考えています。

## 【 学校目標 】

<年間> ~イエス様のように~  
認め合い、仕える子どもを目指して

<2学期>  
自分で考えて行動する子どもになろう

<10月の目標>  
よく学びよく遊ぶ子ども

<10月の暗唱聖句>  
「主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』」 マタイ25章21節

「学ぶ、身に着ける、成長する」これは教育の大切な側面です。そして、上手に沢山をスピーディーに出来るようになると、大人や社会は喜び、必要とされる人となると感じています。しかし、聖書の視点は与えられているもの(たとえわずかでも)に忠実であったかどうかを問うています。持っているものやことの大小にかかわらず、誠実に向き合うことは喜びなのだ聖書は語りかけています。皆様のご家庭が守られますように祈ります。

チャプレン 植田祐幸

## ◇ 2021年度児童募集

10月1日から募集要項・願書等の書類を配布しています。

第1期願書受付 11月2日~19日

第1期入学選考日 11月23日

※第1期で定員に満ちた場合は、第2期は行わない場合もあります。

第2期願書受付 1月6日~21日

第2期入学選考日 1月24日